つるさき

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島 2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
URL
http://turusaki2.web.fc2.com/

夏祭りに茅の輪をくぐる神職と総代、参拝者

五十号を迎えた社報

平成十年四月に当社の宮司に就任したのを契機に、神社の様子や神道についての解説等を発信する手段として、社報「つるさき」を年二回発刊して参りましたが、本号で五十号を迎える事ができました。

当初はB５版のモノクロ印刷でしたが、平成二十五年の第三十一号からA４版フルカラーに改訂し、ネット印刷を導入致しました。

印刷会社からネット印刷に切り替えた事で、印刷経費はかなり抑えられましたが、文章の校正や写真の調整、印刷データの作成など全ての作業を、間違いのないように進めなければならず、手間は掛かりますが、自由に思うような社報を作る事ができるメリットも生まれました。

最近では、ネット接続機器のモバイル化に伴い、ニュースや情報を瞬時に受け取る事ができ、新聞を購読しない世帯も増えつつある現状ですが、紙媒体での情報伝達は、ネット環境を持たない人を含め全ての人々に手触りや視覚で訴える事ができる情報伝達ツールとしてまだまだ利用可能だと思います。

今後も神社の日々の様子は勿論の事、六百数十年に亘って、氏子の拠り所として信仰されて来た神社の本質とはどのようなものなのか？神社の歴史を紐解きながら掲載していこうと思います。

そして、「つるさき」が一〇〇号を迎える日を楽しみに日々神明奉仕に勤めて参ります。

（過去の社報は鶴崎神社ホームページに掲載中）

旧社名「御嵜宮」とは

当社の現在の社名は鶴崎神社であるが、明治初期までは御嵜宮と呼ばれており、祭神は大吉備津彦命荒魂である。

御嵜（御崎）は当社の勧請元である吉備津神社の本殿外陣に祀られている艮御崎の名称をもって御嵜宮と冠したと思われる。

しかし、艮御崎の祭神は吉備津彦命と戦って破れた温羅となっているのである。

平安末期に、後白河法皇が当時流行した歌謡を集め編纂したものに「梁塵秘抄」という今様歌謡集がある。

その中に「一品聖霊吉備津宮、新宮、本宮、内の宮、隼人崎、北や南の神客人、艮みさきは恐ろしや」とあり、この「艮みさき」は、吉備津神社本殿外陣の丑寅の方向に祀ってある艮御崎を指すとされており、「艮みさきは恐ろしや」と記されているので、温羅の怨念が恐ろしいと解されている。

旧社名が刻された鳥居額

岡山県内には御崎、御前、丑寅、艮を冠する神社が四十社、広島県には六十五社が建立されているが、多くの神社が吉備津彦系の御祭神を祀っており、温羅を祀っているのは艮御崎の分社とされる艮御崎神社（岡山市北区辛川市場）のみである。

吉備津系の神を祀るのであれば、社名は吉備津神社とするのが妥当であろうが、なぜ温羅を祀る艮御崎の名称を使用したのだろうか？

因みに、吉備津彦命を祭神とし、「吉備津」を冠する神社は岡山県に四社、広島県に五社と圧倒的に少数である。

御嵜＝御崎であり「ミサキ」とも読む。

「ミサキ」は民俗学において全国に様々な事例があるが、岡山民俗学会員の三浦秀宥氏は著書「荒神とミサキ」の中で「ミサキには、オサキ・オオサキ・オンザキ・カンザキ・コウザキ・ゴンゼンなどの呼称があり、御前・御崎・大崎・大前・恩崎・権前などの用字例がある。」としており、更に大小のミサキの中には、村の外部から、有力な大社のミサキを勧請したという来歴の伝わっている氏神や鎮守がかなりある。

備中地方では「梁塵秘抄」にその恐ろしさをうたわれた吉備津神社の「丑寅みさき」を迎えた例が多い。御前神社や艮御前神社はいずれも吉備津神社のミサキを勧請したものであり、主神の吉備津彦命そのものを勧請する風の生まれたのは恐らく近世以後であったと思われ、「祖霊のほかに怨霊、御霊、死神、その他もろもろの災難をもたらす悪霊などを皆含めてミサキと呼ぶ。」としている。

また、岡山大学名誉教授藤井駿氏によると、神道や民間信仰で、神のさき祓いとか使わしめ、または大神に付随する神々の化身とされるものを、「みさき」或いは「みさき神」といい、その神をまつる社が御崎宮、御崎神社であるとしている。

当社所蔵の賀陽氏（吉備津神社代々の宮司家）の古書には「御崎大明神と称する事は、大吉備津彦命の荒魂を祀っているからである。各地の御崎神社又は御崎宮と称する事と同意である。」と記されている。

以上の記述から吉備津神社の艮御崎の祭神は温羅となっているが、古くは「ミサキ」を祀っていたのではないかと思われる。

このミサキこそが吉備津彦命の荒魂ではないのだろうか？

そうなると、神の荒魂を祀る神社が御崎と言う事になる。「御崎」、「御前」神社が社名に吉備津を冠しなかったのは、吉備津彦命の「荒魂」を祀ったからに他ならない。また、社名に「艮」、「丑寅」を冠するのは「御崎」、「御前」を略して冠していると思われる。

「御崎」、「御前」、「艮」、「丑寅」神社は吉備津彦命の霊威を吉備国に広めるために荒魂を祀って行ったと思われる。

荒魂
時にのぞんで、格別に顕著なご神威を現せる魂の働き

神道Q&A

〈出産等に関する神事〉

【質問】

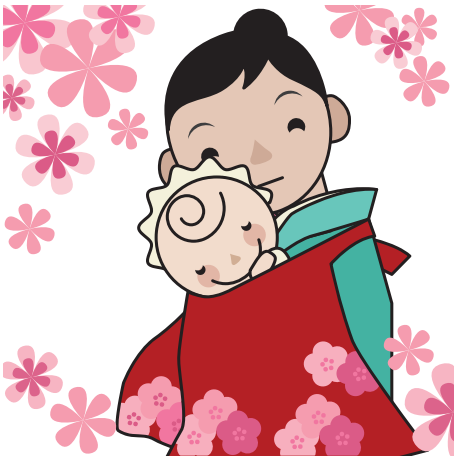
出産や育児に関する神事はどの様に行われて来たのでしょうか。

【答え】

妊娠や子供の誕生、成長の過程で、子供が無事に生まれ、丈夫に育つことを願うさまざまな産育に関わる神事がおこなわれています。

妊娠五カ月目（地域によって日数に相違）の戌（いぬ）の日には、帯祝いと称して、妊婦の腹に木綿の布で作られた腹帯（岩田帯）を巻きます。これを戌の日に行うのは、犬は多産ということにあやかるためや、この世と来世を往復する動物と考えられていること、また、よく吠えて家を守るため邪気を祓う意味があるといわれています。また、腹帯には胎児を保護する意味があるほか、胎児の霊魂を安定させるなど信仰的な意味もあるといわれています。

皇室においても、一般の帯祝いと同様の「着帯（ちゃくたい）の儀」があり、御懐妊五カ月目の戌の日に、「内着帯」（仮着帯）を行い、九カ月目の戌の日に正式な「着帯の儀」が行われます。この儀式に用いられる帯は、まず、宮中三殿に納められ、その後に着帯がおこなわれます。



妊娠中には日常と比べて多くの禁忌があります。葬式に参列してはならないことや、火事を見てはならないこと、このほか、食べ物については限りがないほどの制約が設けられており、これらの禁忌は妊娠・出産という緊張状態にある妊婦と胎児の体を気遣ってのことであると考えられます。

さて、出産後も新生児に対するさまざまな行事がおこなわれます。生後三日目（地域により相違あり）に産湯を浴びさせますが、この湯に塩や酒を入れると風邪をひかないといわれています。これは子供の身体を清め、発育を願う意味もあるようです。また、七日目のお七夜には、子供の命名をして親類や隣近所の方などを招いてお祝いの席が設けられます。この際に名前を書いた紙を神棚や床の間に貼り、家の神様に家族の一員としてお守り戴くようお願いをします。

生後三十日前後に氏神様にお参りすることを初宮参りといい、神様のお力によりこの世に生を享（う）けたことに感謝するとともに、氏子の一員として氏神様に承認戴く行事です。また、百日前後にお食い初めといい、お祝いの食事を食べさせる行事がありますが、これも一生食物に不自由なく過ごせるようにという願いがこめられたものと考えられています。

七五三詣り

本年は下記の年齢の子供が七五三のお祝いにあたります。「七五三参り」のご祈祷は随時奉仕致しておりますが、予約をお願致します。

3歳	令和2年生	男・女
5歳	平成30年生	男
7歳	平成28年生	女

七五三詣りは「かぞえ年」で行うのが本義ですが、諸事情により「満年齢」でもお参りされています。

落石防止工事実施

【弁才天御休み所】

神幸祭の御休み所となっている丘は現在使用されていないが、落石の危険があるため、昨秋擁壁を設置した

コンクリート板の擁壁を設置した御休み所

支部総代会長就任

令和四年五月九日開催の岡山県神社庁倉敷都窪支部臨時総会に於いて、当社総代長大森茂氏が同支部総代会会長に選任され、七月一日付けで就任しました。

岡山県神社庁表彰受賞

令和四年四月二十八日開催の岡山県神社庁表彰式に於いて当社責任役員永原耕吉氏が同庁の表彰の栄誉に浴した。

この度の表彰は表彰規程第二条「神社の役員及び総代であって、多年に亘り神社に奉仕し、その成績優秀な者。」を授与された者の中で、特別な功労のある者に対しての第三条表彰の受賞となりました。

授与品①　ミニ大麻（おおぬさ）

大麻は元来、神社の祭典や祈祷時に心身の穢（けがれ）を祓（はら）う祭具ですが、家庭用に小さくした大麻を作りました。

玄関などに置いていただき、葬儀の帰りや、穢れに触れた場合などに自分に向けて左・右・左と三度振ってお祓いをして下さい。

（初穂料一、〇〇〇円）

神社誌を寄贈

本年三月、国立国会図書館からの依頼に続き、大阪府立中央図書館から「きわめて貴重な資料であり当館において是非収集したい」旨の神社誌寄贈依頼があり、寄贈に応じました。

（鶴崎神社 神社誌は当社ホームページにＰＤＦで全ページ掲載しています。ダウンロード可）

http://turusaki2.web.fc2.com/

大松の剪定

六月に拝殿前の大松を五年振りに剪定しました。

剪定が終わった２本の松

総代の異動（令和四年四月一日付）

帯高南古開	
新任	退任
中村　之信 倉敷市帯高二六二	妹尾　洋一 倉敷市帯高三〇一ー二

祭事暦

十月十五（土）
［午前十時］鶴崎神社秋季大祭【供膳祭】
［午後七時］八幡神社秋季大祭（露店あり）

十月十六（日）
［午前九時］神幸祭（予定）

十一月十五日を中心に　七五三祈祷

十一月二十三日（水）
［午後二時］新穀感謝祭

一月二日（月）［午後二時］年始祭

毎月一日［午前九時］月次祭

※月次祭はどなたでも参列出来ますので、お誘い合わせご参拝下さい。

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております。

◆家内安全・交通安全・初宮詣・七五三詣・厄除・九星災難消除・安産・当病平癒・学業成就・その他

◆地鎮祭・上棟祭・家移清祓・埋井祭・改装清祓・解体清祓・神葬祭・霊祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。